

高校1年 1単位

| | |
|-----------|--|
| 使用教材 | キリスト教学校教育同盟編『旧約聖書の教え』創元社 |
| 試験・評価・課題等 | ①年間目標を「旧約聖書」に定め、旧約聖書全体、ならびに上記のテキスト、また適宜配布するプリントを用いて授業を行う。特に、旧約聖書がイエス・キリストの到来に対する道備えであり、旧約聖書から新約聖書にかけて一貫する、神の救いの計画を概観し、イエス・キリストが受難と復活を経験された意味を考える。 ②成績は、a)教会レポート、b)ノート提出、c)平常点、d)期末考査によって評価する。 |

学習計画

| 期間 | 学習項目 | 指導上のポイント | 備考 |
|-----|---|--|----------|
| 一学期 | 中間 ガイダンス 第一章 天地創造とイスラエルの民の誕生 1.天地創造 2.アダムとエバ 3.大洪水とノアの方舟 | 聖書がこの世界の起源を神に定めていることに注目しつつ、神の奇跡によってこの世界とそこにあるすべてのもの、とりわけ人間が存在するようになったことを確認し、その意義を考える。 最初の間であるアダムとエバの姿を通し、人間が神から愛される存在であること、それにもかかわらず人間は神を裏切る姿を理解する。 | 教会レポート開始 |
| | 期末 5.アブラハム 6.ヤコブ 7.ヨセフ 一学期のまとめ (試験対策) | イスラエル民族の祖たちの生涯を通じて、神に祝福される者の在り方と、人間の罪や限界を知る。 | |

| | | | | |
|-------------|--------|--|--|----------------------------------|
| 二 学 期 | 中 間 | 第二章 約束の地を目指して 8.モーセ 9.出エジプト 10.葦の海を渡る 12.十戒 13.荒れ野の放浪 第三章 約束の地における指導者たち 14.カナン定着とヨシュア | 「出エジプト記」を中心に、イスラエル民族のカナン定着までの様子を知る。エジプトからカナンに至るまでのイスラエル民族の姿を通して、人間の肯定的側面と否定的側面の双方を考える。 | 教会レポート開始 『プリンス・オブ・エジプト』鑑賞 |
| | 期 末 | 16.サムエルとイスラエルの初代の王 サウル 17.偉大な英雄王ダビデ 18.栄華を極めた王ソロモン 19.イスラエル王国、ユダ王国の分裂 と預言者 二学期のまとめ（試験対策） | イスラエル民族の栄枯盛衰の様子を、「サムエル記（上下）」「列王記（上下）」「歴代誌（上下）」を中心に概観する。 イスラエルの王たちの姿を通じて、人間のはかなさや限界や罪を考える。 | |
| 三 学 期 | 期 末 | 20.イスラエル王国の滅亡と預言者 21.ユダ王国の滅亡と預言者 22.捕囚時代とエルサレム復興後の預 言者 中間時代 三学期のまとめ | イスラエル民族の衰退、神の導きと配慮の歴史を「預言書」を中心に概観する。滅亡した南北王国に与えられた王国再建の希望が、救い主（メシア）を待望する思いへと発展し、イエス・キリストの到来に結びつくことを確認し、旧約聖書から新約聖書へと受け継がれる神の救いの約束を知る。 | 教会レポート開始 |

高校2年 1単位

| | |
|-----------|---|
| 使用教材 | 大村修文著『キリスト教史はじめの一步』日本基督教団出版局 |
| 試験・評価・課題等 | ①年間の学習領域を「教会史」に定め、上記のテキスト、また適宜配布するプリントを用いて授業を行う。世界史・日本史の履修内容を意識しつつ、キリスト教的視点を持って、教会の2000年に及ぶ歴史を概観し、歴史を超えて共通する、普遍的な人間の性質や在り方を学ぶ。 ②成績は、a)教会レポート、b)ノート提出、c)平常点、d)期末考査によって評価する。 |

学習計画

| 期間 | 学習項目 | 指導上のポイント | 備考 |
|-----|---|--|----------|
| 一学期 | 中間 ガイダンス 第一章 古代のキリスト教 第1節 キリスト教の成立の背景とイエスの時代 第2節 ペトロ、パウロによる活躍 第3節 ローマ帝国による迫害と公認 | ・教会史を学ぶ意義（歴史の持つ普遍性） 聖書の時代から教会の時代（旧約聖書～新約聖書～初代教会）へと歴史をたどりながら、聖書が私たちの歴史へと受け継がれていることを確認する。 | 教会レポート開始 |
| | 期末 第4節 古カトリック教会の教えの確立 第二章 中世のキリスト教 第1節 キリスト教のゲルマン人への浸透とローマ教皇権の伸張 第2節 東方教会の発展 一学期のまとめ（試験対策） | コルプス・クリスチアヌム（キリスト教世界）の成立とその影響 東方教会の歴史と特色 | |

| | | | | |
|-------------|--------|---|--|-----------------|
| 二 学 期 | 中 間 | <p>第3節 教皇と皇帝の対立と十字軍</p> <p>第4節 ヨーロッパ中世の文化</p> <p>第5節 教皇権の動揺と異端の動き</p> | <p>教会が犯してきた「負」の歴史に向き合うことで、人間が持っている原罪について考える</p> | <p>教会レポート開始</p> |
| | 期 末 | <p>第三章 宗教改革の時代</p> <p>第1節 ドイツの宗教改革（1）</p> <p>第2節 ドイツの宗教改革（2）</p> <p>第3節 スイスの宗教改革とその影響</p> <p>第4節 イギリス（イングランド）国教会の成立</p> <p>第5節 カトリック改革（対抗宗教改革）</p> <p>二学期のまとめ(試験対策)</p> | <p>聖学院がプロテスタント校であることを踏まえつつ、自らのアイデンティティに繋がるように宗教改革史をたどる。</p> | |
| 三 学 期 | 期 末 | <p>第五章 アジアと日本のキリスト教、そして現代世界のキリスト教</p> <p>第1節 アジアのキリスト教と日本のキリシタン</p> <p>第2節 19世紀後半の日本のプロテスタント・キリスト教</p> <p>第3節 20世紀前半の日本のキリスト教</p> <p>第4節 現代世界（第二次世界大戦後）におけるキリスト教</p> <p>三学期のまとめ（試験対策）</p> | <p>16世紀に日本に伝来して以来のカトリックが、その後迫害と拒絶の歴史をたどり、鎖国を経て19世紀後半のプロテスタント伝来にどのようにつながるのか、時系列に学ぶ。</p> | |

高校3年 1単位

| | |
|-----------|---|
| 使用教材 | オリジナルレジュメ |
| 試験・評価・課題等 | <p>①年間の学習領域を「キリスト教倫理学」に定め、聖書を基盤として、適宜配布するオリジナルのレジュメを用いて授業を行う。 これまでの5年間の学びの集大成として、これまでの学びを改めて問い直し、「いかに生きるか」という問いに対して各々が言語化することを目標とする。</p> <p>②成績は、a)教会レポート、b)ノート提出、c)平常点、d)論述課題によって評価する。</p> |

学習計画

| 期間 | 学習項目 | 指導上のポイント | 備考 |
|-----|---|--|--------------------------|
| 一学期 | 中間 ガイダンス ・1年後の自分への手紙 ・キリスト教倫理概論 倫理とは 善と悪 人間理解 愛と契約 | キリスト教倫理の諸トピックを取り上げる。 毎回の授業で、トピックに対する自分の意見をノートに論述し、提出する。 | 教会レポート開始 |
| | 期末 聖書の人間観 生命と死 死の意味 男性と女性 | | 論述課題① 「わたしが聖学院で学んだ意義」 |

| | | | | |
|-------------|--------|---|--|---------------------------|
| 二 学 期 | 中 間 | 結婚と家庭 世界・国家・個人 労働・社会 戦争・平和 過去・未来 | キリスト教倫理の諸トピックを取り上げる。 毎回の授業で、トピックに対する自分の意見をノートに論述し、 提出する。 | 教会レポート開始 |
| | 期 末 | ・聖学院に在籍した意味 自分の視点から 他者（学校）の視点から 神の視点から | これまでの授業、ならびに聖学院での6年間の学びの集大成とし て、これまでの学びと成長を踏まえて「これからいかに生きるか」 を言語化することを目指す。 | 論述課題② 「わたしがであった聖書のことば」 |